



主治医の一言

第8号
平成27年9月発行
内科 刀塚俊起

☆どうぞご自由にお持ち帰りください☆

◆定期検査を受けましょう

暑かった夏も終り、秋はスポーツ、読書、野外活動が活発な季節です。しかし、日中は残暑はまだ厳しく、朝晩は気温が下がり、体調を崩しやすい季節でもあります。

さて、定期通院している方に医師が検査を勧めることがあります。検査で何が分かるのでしょうか。

◆血液検査、尿検査で何がわかりますか？

病院で行う血液検査、尿検査は、病気の診断と薬の効果、治療効果の確認、副作用チェックのために行います。高血圧症の場合は、血圧計で変化がわかります。糖尿病の場合は、血液検査を行わねば血糖の変化はわかりませんので、血液検査が絶対に必要です。高脂血症の場合も、コレステロールの値は、血液検査でしかわかりません。また、薬剤を長い間、服用している場合は、副作用のチェックのために血液検査、尿検査が必要です。自覚症状もなく肝臓や腎臓に障害が現れることもあります。肝臓や腎臓の障害は、進行しなければ自覚症状として現れません。血液検査で初期に発見することが大切です。以下のことが血液検査、尿検査でわかります。

【血液検査】

- 貧血がないか、肺炎などの感染症がないか、血小板が減るなどの血液の病気がないか
(貧血が進行した場合は、胃腸の病気がある場合があります。)
- 肝臓や腎臓が悪くないか
- 高脂血症かどうか、栄養状態はよいか
- 糖尿病がないか
- 電解質(体液の状態)のバランスが崩れていないか
- 炎症が起きていないか(感染症や関節リウマチ、膠原病など)



(ウラへつづく)

♪糖尿病教室♪

※糖尿病以外の方、ご家族も大歓迎です。

9月9日(水) 検査データの見方 日本糖尿病療養指導士：今城都志枝

時間：16時30分～17時30分 場所：真生会富山病院 さくら病棟 指導室1

♪医学講座♪

9月17日(木) 正しい薬の使い方 薬剤師：内藤義徳

時間：16時00分～16時30分 場所：真生会富山病院 整形外科待合 (総合受付横)

【尿検査】

- 尿蛋白—腎臓の病気がないか。膀胱炎、腎炎など
- 尿糖—糖尿病がないか
- 尿潜血—腎臓、尿道、膀胱の病気がないか
- 尿沈渣—膀胱炎、尿路感染はないか。腎炎はないか



膀胱炎は尿検査だけでも診断できますが、糖尿病は血液検査と組み合わせて判断します。

大事な病気が抜けていますね。がんです。血液検査、尿検査ではがんがあるかないかは分かりません。腫瘍マーカーという血液検査は、相当がんが進行せねば異常が出ません。がんを早期発見するために、がん検診が別に設けられています。また、市で行われている「特定健診」の血液検査は、主にこの中の3つをカバーしている（肝臓・腎臓、血糖、高脂血症）だけです。薬を内服されている場合は、半年に一度は、病院での血液検査が必要です。

◆がん検診は受けるべきでしょうか？

市で行われているがん検診は3つです。肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診です。女性は子宮頸がん検診、乳がん検診が加わります。検診の受診率は、概ね、男性40%前後、女性30%前後です。子宮頸がん検診は、20代は20%、30代40代は40%。乳がん検診の受診率は最も低く30%以下です。欧米の80%に近い検診受診率に比較すれば、その差は歴然としています。

かつて、集団検診に批判的な医師の意見が席捲したことがありましたが、現在はいくつかの研究成果により、がん検診はがんの早期発見に有効であると考えられています。胃がん検診はバリウム検査が主流でしたが、内視鏡検査の有効性が示されて、昨年頃から胃がん検診に採用されました。肺のレントゲン検査は、肺がんだけでなく、結核、他の肺や心臓の病気が分かることがあります。大腸がん検診は、最も簡単です。便の中の血の成分を検出するだけです。潜血反応と言います。もし陽性であれば、大腸内視鏡検査を受けていただきます。大腸がんは早く発見されれば、治癒する可能性が高いがんです。便検査は是非、年に一回受けられることをお勧めします。

次の世代のがん検診が次々と開発されています。遺伝子情報を利用した検査です。血液一滴で早期がんの有無が分かる検査がすでに実用化されています。いずれも高額で、数万円以上かかるものばかりですが、今後コストダウンするでしょう。これらの検査が普及すれば、がん検診は大きく変わるでしょう。

